

表1. ポット試験によるマンゼブ水和剤の接種前・接種後散布による効果の比較

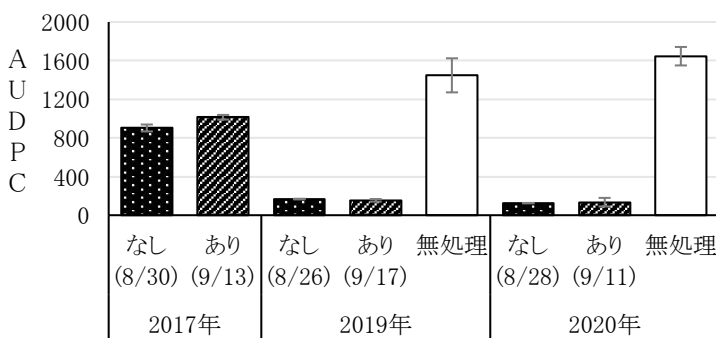
品種 (抵抗性)	無処理	接種前散布			接種後散布		
	病斑数/葉	接種前日数	病斑数/葉	防除価	接種後日数	病斑数/葉	防除価
試験1 パピリカ (やや弱)	7.1	1日前	0.06	99.1	4日後	1.5	79
試験2 ライエシ (やや強)	10.9	1日前	0	100	4日後	5.8	47
試験3 カーベ2K314 (強)	3.7	1日前	0	100	5日後	0.7	81

マンゼブ水和剤は400倍を供試
発病調査は初発の約7日後

表2. 褐斑病抵抗性“強”品種における各薬剤の防除効果

供試薬剤 ・希釈倍率	散布 間隔	AUDPC (防除価)				
		2017年	2018年	2019年	2020年①	2020年②
マンゼブ水和剤	10日	380 (88)	92 (88)	84 (93)	82 (95)	311 (90)
400倍	14日	503 (84)	81 (89)	115 (91)	125 (92)	491 (84)
同 500倍	14日		136 (82)	193 (84)		793 (74)
同 600倍	14日	963 (70)	191 (75)			
硫黄・銅水和剤	7日			169 (86)		734 (75)
800倍	10日			313 (75)		1202 (60)
銅水和剤*	7日		254 (66)	253 (79)		861 (71)
1000倍	10日	1152 (64)	350 (54)			
無処理		3207	753	1232	1646	2995
発生状況		甚	中	中 (接種)	多	甚 (接種)

*塩基性塩化銅67.3% (銅として40%)



9月中旬防除の有無(最終散布月日)

図1. 抵抗性“強”品種における9月中旬防除の効果

注) 各年8月末までは同一の防除を行った。
2017年2回目はカスガマイシン・銅水和剤を用い、
残りはマンゼブ水和剤400倍を散布した。
最終調査日: 2017年-10/10, 2019年-10/7,
2020年-9/30

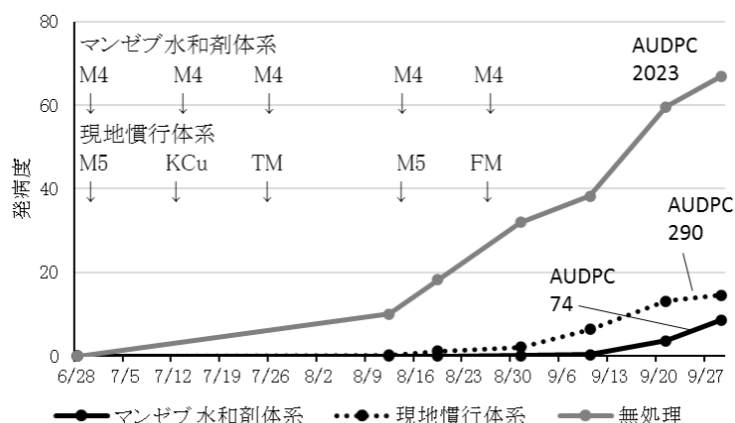


図2. マンゼブ水和剤体系と現地慣行体系の発病度

M4: マンゼブ400倍, M5: マンゼブ500倍, TM: テ
ブコナゾール・マンゼブ, FM: フェンブコナゾール・
マンゼブ, KCu: カスガマイシン・銅。
供試品種: カーベ2 K314, ※8/8に散布したが、降雨
により無効と判断し8/13に散布した。

詳しい内容については、次にお問い合わせください。

道総研十勝農業試験場 生産技術グループ

電話 (0155) 62-2431 E-mail: tokachi-agri@hro.or.jp